

## 2014年度入試の問題分析

## ① 出題分量と出題形式

問題数について見ると、一般入試 前期A日程<1/27>は大問5題、問題数44、また、<1/28>は大問4題、問題数43となっている。各日程とも分量的には同程度である。試験時間(70分)内に余裕をもって解答できるだろう。あせらず落ち着いて解答していくように。時間が余った場合は、設問の読み間違いなどのミスがないかどうかを確認しておきたい。

出題形式では、各日程ともマーク式と記述式からなっている。各日程とも、マーク式が9割、記述式が1割程度とマーク式による出題が圧倒的に多い。また、マーク式では大半が空欄補充と短文選択による出題となっているが、年代順に並べる問題、組合せ問題、資料の読み取り問題なども含まれている。

## ② 出題分野

<1/27>は政治分野2題、経済分野2題、国際関係分野(国際政治)1題からなっている。<1/28>は政治分野1題、経済分野2題、国際関係分野(国際政治)1題からなっている。各日程とも国民生活分野(社会保障・労働問題・消費者問題・環境問題など)からの出題はなく、政治分野、経済分野、国際関係分野(国際政治)が中心の出題となっている。

## ③ 出題内容

政治分野からは例年通り、日本国憲法(大日本帝国憲法との比較、基本的人権の保障)に関する出題が見られた<1/27>。また、統治機構(日本の裁判制度)に関する問題<1/27>、政治過程(政党・圧力団体・選挙)に関する問題<1/28>も出題された。

つぎに経済分野からは、例年、日本経済の現状を問う出題がなされているが、本年度も、前年度と同様に日本の農業・食糧問題<1/27>や中小企業問題<1/28>が出題されている。また、市場経済も頻出傾向で本年度も出題された<1/27>。さらに、前年度に引き続き、金融問題<1/28>が出題されている。

本年度は、国際関係分野(国際政治)からの出題も各日程で見られた。いずれも戦後の国際政治の動向を問うものであった。

## ④ 難易度

教科書に準拠した標準レベルの問題がほとんどである。しかし、<1/28>の経済分野ⅣⅣなどでは、詳細な知識を要する短文選択問題も一部出題された。総体的に見て難度は「適当」といったところだろう。

## 学習アドバイス

## ① 教科書を中心とする学習

大半は教科書に準拠した基礎的なレベルの問題である。したがってまず、教科書を中心とした学習を進めていくのがよい。上述した頻出分野の政治分野、経済分野、国際関係分野(国際政治)については、教科書を熟読して内容を押さえ、太字で記されている重要な専門用語については理解しながら覚えていくことにしよう。その際に用語集や資料集を用いて補充し、知識に深みを持たせるようにしたい。

## ② 記述対策を怠りなく

各日程とも記述式が1割程度出題されている。出題されるのは基本的な用語がほとんどであるが、漢字の間違いなどで失点するケースも多く見られるだろう。そのため、正確に記述できるように練習しておくことも大切である。専門用語は(英単語と同じように)実際に紙に書いて覚えるようにしよう。

## ③ 時事問題に関心をもとう

時事問題の出題はそれほど多くはないが、前年度に引き続き本年度も国際関係分野(国際政治)からの出題が目立った。今日、世界で起こるさまざまな出来事について、新聞・テレビニュースで見聞を広めたり、インターネットを活用して調べたりすると「政治・経済」「現代社会」への関心も深まるだろう。また、そうすることで簡単に解ける問題も数多くある。普段から時事問題に関心を持つようにしたい。

## ④ 過去問を解こう

教科書の学習が一通り終わったら、本学の過去問に当たってみよう。日程による出題内容・形式はほとんど差がない。入試本番と同じように時間を決めて問題を解いてみよう。そうすれば出題傾向だけでなく、時間配分なども分かるようになる。また、間違った箇所を徹底的に見直すことで弱点補強にもなるだろう。